



Mitsui V-Net

Mitsui Volunteer Network Center

三井ボランティアネットワーク事業団

ニュースレター Vol.45

2011年1月1日発行

西洋文明の発達と福祉

広島市社会福祉協議会
会長 古川 隆



今、私達の周りには、文明の利器が溢れ、生活から切り離すことはできません。

西洋文明は、産業革命に始まり、二つの世界大戦を経て、特に、文明の裏付けとなる「科学技術」は異常なまでに発達しました。その結果、私達は限りない恩恵を受けています。

国民が豊かになり所得が上昇してくると、「福祉」の対象は少なくなるはずだとの考えも出てくるでしょう。しかし、いま、年金・医療費・介護費などが膨らんで悩んでいるのは、日本が高齢社会に到達しているからです。「高齢」は医療技術、食糧、健康知識などが預かりもたらされたものですが、一言でいえば、文明の発達が原因です。

未熟児の場合でも、昔の感覚では止むを得ず「死」に繋がっていたものが、「生」と結びつき、これ事態はいいことですが、対象者全員が健康な子供に育つのは難しいといえます。手術の成功の場合でも同じことがいえるでしょう。

「自動車事故」も明らかに昔は発生していません。現状は事故も減ってきていますが、しかし、昨年でも90万人の負傷者が出ています。

昭和9年に碩学、寺田寅彦氏は「文明の発達は災害を大きくする」といわれています。有吉佐和子氏の

「複合汚染」が出版されたのは、もう昔のことですが、「水俣病」「PCB」「アスベスト」など特定のものだけではなく、薬品や薬の複合副作用も人類に大きな影響を与えていることは容易に想像できます。

例を挙げると切がありませんが、これらはみな「文明発達」の影の部分といえるでしょう。

また近年「子育ての社会化」が強く叫ばれていますが、これも社会の変化の影響です。昔の光明皇后(西暦701-760)の時代に出現し、徳川時代にも世に貢献していた「施薬院」は全く「慈善」の考えでした。しかし、現在の「福祉の対象」の多くが「文明の影」の部分とすれば、文明を享受している人達が「共助」の考えに基づいて行動するのが、現代に生きる人達のいわば当然の責務ではないでしょうか。

阪神大震災以降日本でもボランティアが市民権を得てきました。ボランティアの多くは地域に関わっています。「地域」の動きが活性化されれば、地域福祉へもいい影響をもたらします。いまや、「地域社会の生活」と「福祉」は切り離すことは出来ません。

今、日本では、社会や家庭での「役割」を見失いかけている人達が多くいます。三井グループの方々の方により、改めて、自分の「役割」の自覚と行動を通じて、生き甲斐を感じる人達が増えてくれば大変喜ばしいことです。レベルが高く、信頼されている「三井ボランティアネットワーク事業団」の皆さん方の新春を迎えての一層のご活躍を祈ります。

皆様もボランティア活動に参加しませんか

三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ各社の協力を得て、1996年に設立されました。主として三井グループ企業出身のシニア層に対してボランティア活動を紹介・仲介・斡旋するとともに、三井V-Net独自のボランティア活動を企画・立案・実行することによって、シニアの豊かで健康な生きがいを感じられるよう支援を行い、三井グループ全体の社会貢献活動に資することを目的としています。

ボランティア活動会員登録に関しては入会金および年会費等は不要です。
活動の詳細ならびにボランティア活動登録票は、以下ホームページをご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.mv-net.com/>

活動会員登録票は本部または支部までFAXでご送付ください。

本部(東京) TEL:03-5570-2181 FAX:03-5570-8035 関西支部(大阪) TEL:06-4396-8680 FAX:06-4396-8681
中国支部(広島) TEL:082-222-5101 FAX:082-222-5101



人と人のまんなかに。

新春のご挨拶

山本 恵三 (三井V-Net 理事長)

あけましておめでとうございます。本年が皆様にとってよい年でありますよう、そして本年も皆様と力をあわせ、ボランティア活動が力強く展開できるよう願っております。

三井ボランティアネットワークも昨年10月で早や誕生から15年目を迎えました。



その間、運営会員会社のOBおよびそのご家族を中心として、主として三井グループのシニア層の豊かで幅広い経験と知識を、貴重な社会資産を活かせるボランティア活動の場として、「シニアの生き甲斐づくり」・「三井グループの社会貢献活動」に大きな寄与と貢献をしてまいりました。

昨年度のニュースレターでご案内いたしておりました「三井V-Netの今後のあり方」についての運営委員会における検討も終了し、理事会にて新たな定款および諸規程が決定いたしました。

主な変更点は、運営会員会社の休退会による収支の悪化に伴い、事務局の皆さんの人件費を減額していただくとともに、各種合理化を図ること、休退会している運営会員会社の再加入・未加入の三井グループ各社の新規加入を促す活動を活発化すること等々を行い、収支バランスの均衡を図ってまいることとしております。

さらに、大きな改定として①理事長の任期、常務理事会社の三井住友銀行、三井物産、三井不動産、三井住友海上の4社による理事長輪番制の導入②事務局長は6社による輪番制③事務局員は三井V-Net運営委員会が候補者を募り最終的な人選をする④新たな運営委員会の設置および細則等が、具体的に規程化されました。

本年も活動のプログラムとしては、①国際交流②環境保全③医療・福祉④教育・文化の4分野が主たるものですが、時代の変化に適応し改善・改良していくことが、大変重要であると考えております。

最後に皆様のますますのご発展をお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

運営会員会社・運営委員

広がる社員の社会貢献活動

—もう1つのCSR—

山ノ川 実夏 (三井住友海上現役)

三井住友銀行、三井物産に続き、2010年度は三井V-Netの運営委員長会社をさせていただいております。運営委員会では2009年度から「三井V-Netの今後のあり姿」についての検討を進めており、今年度は定款ならびに諸規程の見直しを行いました。引き続き運営委員会の方々、三井V-Netの持続的な発展のためにサポートをさせていただきます。



私は、1991年より社会貢献担当部署で社員の社会貢献活動の支援をしております。1990年代には、企業が社員のボランティア支援をすることに疑問を投げかける方もありましたが、2000年代にCSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)すなわち「社会の構成員として社会に貢献することは社会的責任である」という考え方が浸透するにつれ、企業で社員のボランティア支援が広がってきています。

当社では、部や支店単位で地域のニーズにあった活動を自ら企画し活動する「部支店で年に1つは環境・貢献活動」、またグループ全体では、ラムサール条約湿地等における水辺の環境保全活動を推進しています。週末には全国各地で社員が海岸清掃(大阪では海水浴場のクリーンアップ活動で、三井V-Netの皆様とご一緒させていただいています)、干潟での環境保全活動や自然観察、児童養護施設の子どもたちを対象とした活動などを行っています。活動後に社内のネットにアップされる写真入り報告には笑顔があふれ、「筋肉痛になったが地域に貢献でき清々しい気分だった」、「普段接しない人たちと活動できて楽しかった」といった感想が寄せられます。活動が、市民としてのCSR(Citizen Social Responsibility)を果たす機会にもなっていると感じます。

暗いニュースが続く昨今ですが、多くの企業や団体でこのような活動が広がっていけば、もっと思いやりにあふれた明るい社会になるのではないのでしょうか。



華麗な演奏

演奏者挨拶

エリザバスサンダースホームでチャリティーコンサート開催

大磯のエリザバスサンダースホームにおいて、昨年11月14日(日)第4回チャリティーコンサートを開催しました。会場は大磯の海を眼下に見下ろす小高い丘の上にある聖ステパノ学園「海見えるホール」です。島田彩乃さん(ピアノ)、島田玲さん(ヴィオラ)、上野美科さん(ヴァイオリン)、川口綾子さん(ヴァイオリン)、小川和久さん(チェロ)による華麗で息のあった演奏は迫力があり観客を魅了しました。大磯の美しい海を見ながら楽しく優雅なひと時を過ごすことができました。

なお、収益金はエリザバスサンダースホームへ寄付させていただきました。

横国大部会での活動

坂本 健（三井物産 OB）



留学生と一緒に

横国大部会に入会後しばらくして1対1の交流を始めました。

2007年秋に中国人交換留学生Gさん（教育、修士、女性）が最初で、現在3人の大学院生と交流しています。それぞれ个性的で努力家で日本最良です。昨年は留学生の希望者が多く、引受ける会員が不足のため「高水平」(※1) Wさん（国際・社会科学、修士、男性）とも組むことにしました。4人となると窮屈な日程になる見込みです。

昨年の8月には最初に組んだGさんが新婚旅行で大阪経由横浜にやってきました。帰国後しばらくは「又日本に帰りたい」と半ベソをかいていましたが、JR桜木町駅の改札からにこにこ大きく手を振って出てきたのを見て非常に安心しました。

どうせやるならと昨年は部会の世話人まで引受けました。

当部会は元々1年以内の短期留学生を対象にしてきましたが、大学の国際化に伴い、依頼される留学生も英語だけで授業を受けているIMP(※2)、昨年の4月入学生から始まった中国の「高水平」など従来とは異なる大学院生を数多く受け入れするようになりました。我々に要求される対応内容も全く変わってきています。横国大も更に国際プログラムを増やす計画をもっており、その受入れについては、大学教職員だけでなく我々ボランティアの協力が幅広く求められると思われます。三井V-Netの横国大部会の活動も学内に認識されつつある兆しがあり、会員数ももっと増え大学側の要請に積極的に応えていく体制が整うことを心から願っています。

※1:「高水平」は直訳すると「高水準」の意。中国政府の「国家建設高水準大学公派研究項目」に基づき、同政府認定大学の優秀な学生を外国に派遣する制度。

※2:「IMP」とは、「インフラストラクチャー マネジメント プログラム」の略で、途上国の政府の官僚又は政府系企業の職員を対象とする修士課程のコースで、世界銀行、日本政府(JICA)及び横国大の共同事業です。学生に対する奨学金等は世界銀行から出ています。

留学生との交流

八木 勝司（商船三井 OB）

会社を退職し、知人の勧めもあり昨年2月より三井V-Net横国大部会の活動に参加しました。それには以前海外生活で現地の人達にお世話になり、その感謝に対する思いと、若い留学生との交流を通じて元気を貰いたいとの意図がありました。当部会は留学生と1対1での交



馬さんと一緒に

流を行っており、昨年2月より中国人の馬さん、加えて10月よりフランス人のダンさんと交流しております。まずはお互いが親しくなるよう出来るだけ心を開くよう心掛け、週1回1時間半～2時間程彼等と接します。日頃気が付いたことを取り上げ、日本語の学習、日本

の歴史、文化等について話をします。一方で彼等からはその国の歴史・文化等説明して貰う事ができ、こちらも有意義な時間を送ることができます。

以前の海外での勤務を送るに際して現地の方より「善良な市民」であるよう勧められたことがありました。それはただ日本人の見方で判断するのではなく、その国、住んでいる人を理解し、現地の人の目線で考え、行動することを意味します。願わくは留学生の彼等には日本の文化、風土等をより理解してもらい、周りの人達と親しんでもらい「善良なる横浜の市民」となり、そして彼等が母国に戻り彼らの周りの人達に日本での思いを語って貰えればとの願望を持っております。

そのためには自らが出来る限り正しい知識、事実を彼らに伝えることができるよう努めなくてはならず、彼らと会うごとに緊張感を持って臨むよう心掛けております。

千葉大部会の新世話人をお引き受けして

高山 進（三越 OB）

昨年10月12日（火）、千葉大学側の責任者新倉教授、見城准教授にもご出席戴き、三井V-Net千葉大部会の総会が千葉大学国際教育センター2F会議室で開催されました。そしてその席で加藤良克前世話人より指名され、新世話人をお引き受けすることになりました。当会の活動に参加させていただき2年と経験は浅いのですが、千葉大部会メンバー29人の皆さまのご協力を得て、更に活動の輪を広げて行きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



現在千葉大部会の主な活動は①1対1交流②留学生の就職活動支援の「ワークショップ」開催③企業の工場見学バスツアー④東京国立博物館の「留学生の日」に留学生の案内⑤千葉大側開催の行事への参加協力（短期留学生の研究発表会、ユニバーサル・フェスティバル他）そして今年から新たに大学側の要請で⑥新入留学生の到着後の諸手続きサポートなども加わりました。

さて、私事ですが35年ほど前、プライベートで一人台湾に旅行したことがあります。予約もせず往復航空券だけの行きあたりばったりの旅でした。台湾にはその当時戦前の日本語教育を受けた人達が各地にいて、中国語



の解らない日本人の私にも心からの親切さで対応してくれました。そのときの感謝の気持ちは35年たった今も変わることはありません。

今回世話人をお引き受けして、担当する千葉大学の留学生の皆さんが、私たち千葉大部会のメンバーの心からのサポートを、35年たっても思い出してくれるような、そんな活動にしたいと思っています。

私のボランティア活動

後藤 正隆 (三井物産 OB)



私の三井V-Net登録は60歳代前半でしたが、実際に活動を始めたのは70歳を過ぎてからです。国際交流分野を希望し東大柏部会に属し、東大留学生との1対1交流に参加しています。現在は理科系研究生で副教授資格を持つ中国人

女性との交流です。彼女は事前の日本語研修もなく来日したので、大学での日本語授業には苦勞しており、専門課程では英語で対応出来るものの、2年間の留学期間に、日本語会話上達、日本の文化、生活一般、住環境等についての理解を深めたいという才女です。交流は週に一度約2時間の予定で半分を日本語会話にあて、彼女の関心事項につき、極力日本語で表現させ、粘り強く聞いて修正することで正しい日本語の会話力を養うことにしています。残り半分は大学での日本語教科書の予習復習の形をとっています。

更に、メールで次回交流日の確認を行う際、季節感、近況、出来事、質問などを追記して彼女からの日本語での返信を求めます。私はそれを添削し次回の交流日に訂正の指導を行い、文章力の養成に留意しています。

最近助詞や形容詞を正しく使った返信が多くなり一寸嬉しく感じています。

その他東大柏部会が行う留学生との交流企画として年2回バスを利用して、一昨年春は笠間の陶炎祭(ひまつり)見物と茨城県陶芸美術館見学、秋は富士山と山梨リニア実験センター見学、昨年は5月に佐倉の国立歴史民俗博物館見学を行い、11月には東芝科学館・葛西臨海水族園見学をし、いずれも多数の参加を得て好評を博しました。私も部会の世話係の一人としてお手伝いに同行致しました。

せっかく日本を留学先を選んでくれた世界の若者達に日本滞在を楽しく有意義に過ごして貰い、末永い友好の絆にして貰えればと願っています。

三井V-Netの1年

廣瀬 邦彦 (三井化学 OB)

三井V-Netに参加して1年余りになりました。趣味の野



菜作りや果樹の栽培など畑作業を楽しんでいたとき、偶然に昔の仕事仲間と出会い参加したのがきっかけでした。

仕事で海外へ出かけた経験もあったためか、外国の留学生のお世話をすることに興味がわき、1

対1交流もスムーズに始めることができたと思っています。今は、メキシコの方とフランスの方、中国の方と週一回日本語の勉強をしています。それぞれレベルは違いますが、一生懸命学ぶ姿勢は私を喜ばせてくれますし、おのずとこちらも力が入ります。日本語の習得だけでなく、日本の習慣や日本の文化も体験して、是非日本通になって日本びいきになって帰国してほしいと思い、あちこち連れ回すことにしています。

浅草の観音様と仲見世の雑踏は入門篇です。たぬきそばと親子丼、カツ丼は大事な付録です。千鳥ヶ淵の桜と靖国神社のお参りも重要なコースです。私自身あまり経験したことのないこともずいぶん経験しました。六義園のしだれ桜、紅葉は皆喜びと驚きを見せます。雪の六義園には感嘆の声をあげました。浅草から隅田川を船でくんだり、浜離宮恩賜庭園への散策は大変好評でした。

最近私もメキシコやフランス、中国のことを勉強しようと、それぞれの国の言葉の勉強をはじめました。彼ら自身は日本語の勉強をしながら、私に自分の国の言葉を教えることは楽しいことのように感じています。畑の野菜作りは、手をかけても虫や鳥に食べられて、情けなくなることもあります。立派な収穫があると大満足です。三井V-Netでの1対1交流も似たようなものかなと想像しながら、毎日張り切っています。

ミニ社会の縮図

塩入 信子 (登録活動会員)



かつては、桜並木が美しく続いていた古い日赤医療センターでボランティアを始めてから12年余りとなりました。この年月がなんとかけ足だったことかと思わずには

いられませんでした。そして、万華鏡のように色々なことが浮かんでまいりました。ボランティアといえども、様々なことにぶつかりました。その対応に苦慮することもありましたが、仲間の方々によって助けられ、支えられて、この年月が経ったように思いました。三井グループの方々には感謝いたしたく思います。

私がこの道に入ったきっかけは、カナダでの病院や

老人施設のボランティアからでした。授業がない日は、ほとんど各場所にボランティアに出かけました。そこで、私は日本では見ることのできないほどたくさんの深い印象を受けました。カナダの人たちは時間が取れると、気軽に30分でも1時間でもボランティアとして手を差し伸べる、ボランティアをすることが当たり前とされている人々でした。それが子供(小学生)のころからなので驚いたことでした。そして、私もいつかボランティアとして社会に還元していこうと心に誓いました。それが実現して12年もの間、週2回のボランティアを続けられたことはカナダの体験があるからでした。

今、時が流れていく中で、日赤ボランティアとして思うことは、以前のような温もりのあるホットな病院でなくなっているように見えることです。来院される患者さんは様々で、少しでもホットな言葉をかけて差し上げたいと思う昨今です。病院は、本当に「ミニ社会の縮図」をあらわしている場所と思いました。

関西支部(大阪)

中国人留学生との交流を通して

藤井 健三(東レOB)



沈さん(左) 藤井さん(右)らの留学生で、神戸大学大学院工学研究科に学ぶ沈鵬さんを紹介され、1年間のボランティアを引受けました。

私は、ここ10年余り「日本スリランカ友の会」という日本とスリランカをつなぐ草の根国際交流のボランティア活動をしておりまして、常日頃から日本人と外国人との相互理解増進のためには、草の根のボランティア活動がきわめて有効であるとの思いをもっておりましたので自然体で沈さんとの交流に入っていくことができました。「縁は異なるもの」と申しますが沈さんの専攻は応用化学で膜の研究をされていると聞き、東レの逆浸透膜(RO)の話の切り出すと不思議な縁に沈さんも大変驚いていたのがとても印象的でした。

沈さんは安徽省の出身でハルビン工科大学を卒業後、一時期上海の企業での研究生活を経験したのち神戸大学に私費で留学というコースをたどっていますが、見るからに真面目な研究学徒といった感じの好青年です。物静かで口数はあまり多くはありませんが、日本語での日常会話もまますでできるというレベルでしたので話しことばとしては、日本語独特の微妙なニュアンスをかもしだすことば(日本語表現の多様性)と書きことばの表現

の仕方の特徴を中心に行ないました。沈さんの研究生生活も多忙であったため、交流の回数は多くはありませんでしたが、心は充分交いあえたと思っております。

尖閣諸島の帰属問題を巡り中国内陸部で大規模な反日デモの報道に接するたびに、政治体制(共産党一党支配)と組織体制(資本主義市場経営)の矛盾を感じつつ、なお一層民間レベルの交流による日中国民の真の相互理解が進むことを願うばかりです。

親愛なる三井ボランティアの皆さんへ

ナンディタ ヘティラッチ
(スリランカ ルハナ大学教授・元神戸大学留学生)



ナンディタさん家族

私たちの日本在留の間、皆様からのご支援がなければ、私たちの生活は大変困難に満ちたものであったであろうと思います。

奨学金の申請書や住宅申込の申請書など各種の書類を漢字で書きあげるのに苦労している時に皆さんからいただいたご支援

を私たちは忘れることはできません。皆さんのご協力のおかげでランカと私は計画通りの5年間で修士コースと博士コースを終えることが出来ました。更に私たちは日本で子供をもうけ2年半の間、子供を育て上げました。

振り返ってみますと私の知る限り誰も以前にはこのようなことをやり遂げておりません(日本で子供をつくり、勉学を期限内に終えること)。私たちにあって三井ボランティアは私たちが日本で成功した大変大きな支柱であったと誇りと確信をもって表明します。

今、私たちの国ではテロ活動が次第に収束に向かっており、外国からの旅行者が街角に多く見られるようになりました。三井ボランティアの皆さんがスリランカを訪れる時には私たちは喜んでご協力申し上げます。

ナンディタ(夫)、ランカ(妻)、ヴィハー(息子)

(原文英文 日本語訳 商船三OB 熊谷克己様)

二色の浜ビーチクリーンアップに参加して

芦原 実(日本ユニシスOB)



我々人間は一年でこんなに汚してしまうのか!正直な感想でした。

そもそも私がこのクリーンアップ活動に参加しようと思い立った経緯は、会社の先輩で現在三井V-Netで活躍されている澤野井さんからV-Netニュースを頂き、何気なく読んでいたところ、海岸クリーンアップボランティア活動の存在を知った時からです。

実は、私の道楽の一つが海釣り、もう40年近く続



けております。海で過ごす時間は心身ともリフレッシュでき、最高の良い日々となります。釣果があれば尚更ですが(笑)。恵みを与えてくれる海に対して、お返ししなければ。他人様がクリーンな海を提供して下さるのに、恩恵だけ受けていれば良いのか。「義をみてせざるは勇なきなり」と思い立った次第です。

私事になりますが、昨年定年となりました。時間的なゆとりも生まれ、趣味の拡充や、ボランティアにも参加したいと考えていた折、このような私にとって身近で好きな所(海)で場を見出せたのはなんと幸せな! 身近なところでのボランティア。

今では小学児童のための「登校見守りたい」にも参加しております。私の子供がお世話になった学校に恩返しができる。朝、学童の登校時にユニフォームを着て見守るだけのことなのですが、学童から「おはよう」、「ありがとう」の言葉をかけてもらえることに喜びと感激があります。恩返しのつもりが逆に元気をもらえるなんて、最高です。

ボランティアとは奉仕ではなく喜びや元気を与えて貰えるものだと思っております。

微力ですが今後も身体が動く限り、続けていきたいと思っております。自分のためにも。

●二色の浜 禁煙条例制定提言



二色の浜禁煙条例提言書

ビーチクリーンアップin二色の浜実行委員会(三井V-Net、三井住友海上、三洋電機)3団体は毎年秋に二色の浜の海岸を清掃してごみの分析をしています。過去5年間のごみ分析結果によりますとワーストワンはタバコの吸殻でごみ全体の42%を占めています。この清掃活動では、ごみの種類を分析することにより、ごみの発生源に遡り対策をとることを目的としています。このため大阪府営二色の浜公園を管理する大阪府知事に対して二色の浜に禁煙条例を制定するよう提言書を提出いたしました。これにより条例制定の前段階として禁煙の啓蒙活動を2010年の海水浴シーズンより実施するよう大阪府から関係者に行政指導されました。具体的な対策として、海水浴場各所に禁煙を呼びかける看板設置、分煙のため喫煙コーナー設置、食堂・休憩所内で禁煙看板掲示、禁煙を呼びかける定時アナウンスなどが実施されました。その後の清掃活動の結果では、ごみの総量に減少は見られなかったものの、タバコの吸殻の比率は34%に減少していました。

禁煙条例制定に向けて行政の動きも速く2010年11月より大阪



二色の浜 禁煙看板設置

府民のパブリックコメントで賛否意見を募集し、2011年2月大阪府議会に上申される予定です。単なる清掃活動から一歩進んで、行政を動かした環境改善が進展することになります。(関西支部 事務局 澤野井潤一)

マイナビABCゴルフ トーナメント

森 信二 (三井物産 OB)



何時も耳にするプロゴルファーのトーナメント、その運営ボランティアの募集を三井V-Net関西支部より案内があり、参加することと致しました。マイナビABCチャンピオンシップゴルフトーナメント4日間の運営をヘルプするもので、プロゴルファーに接するのも、約40年振りの大会でした。大会運営には、想像以上の労力と時間を要し、多種多様な手間を要する業務に基づき運営されていることを痛感した次第です。ボランティアの人数も数百人に及び、県内は勿論県外より足を運ぶ人、ご婦人で各種のトーナメントに参加しているためお互いに顔見知りのベテランボランティアが多数見受けられました。毎朝午前7時迄にボランティア本部に集合、その日の業務注意指示を仰ぎ、各持分の場所にて待機致します。私は選手のサイン入りグッズのチャリティー販売を担当し、ここでも石川遼君の人氣が非常に高いのに驚いた次第です。人氣グッズは朝7時過ぎより購入希望者の行列が出来、販売開始より数分の内に売り切れの状態でした。幸いグッズ販売場所のテントも、クラブハウス、アウトNO1、NO9の近くに位置し、時々プレーを観戦する機会に恵まれました。優勝を争う組、遼君、谷口、矢野、キムキョンテの属する組のギャラリー数は半端でなく熱気に溢れ圧倒される雰囲気でした。プレー中の天気は晴天とは言えませんが、降雨も稀でプレーには恵まれたトーナメントと言えました。ギャラリーも老若男女、特に女性のギャラリーも大勢で花を添えておりました。時折招待された地元小学生の列が説明を受けながら通り、プレーを観戦、ゴルフ振興のため将来のプロゴルファー育成の一環として支援されているとのことでした。通常は留学生のお世話をしていますが、今度は異なった世界のボランティアに参加することが出来ました。最後になりましたが三井V-Net関西支部には心より御礼申し上げます。

四天王寺ワッソボランティア体験記

浅輪 裕子 (三越 OG)

2010年秋に三井V-Netの案内により大阪城南隣なわの宮跡公園で催される四天王寺ワッソの運営にボランティアとして参加しました。

四天王寺ワッソは「友情は1400年前の昔から」のサブ



タイトルどおり、古代なにわの津とよばれた港町大阪に到着した東アジア使節団を当時の首都なにわの宮に迎える国際交流の儀式を今に再現する祭りです。歴代朝鮮王朝の使節に楽団、舞姫が随行し華やかなパレードとなります。

迎える日本の登場人物は聖徳太子、推古天皇、聖武天皇など古代日本歴史上の偉大な人物。出演有名人も協賛出演の方々も、みな堂々たる風貌、いでたちで登場人物になりきり、なかなか立派なパレードでした。

ボランティア活動は、前日の準備から始まりました。参加記念品のセットづくりの単純作業ですが、数量が多いのでまる一日作業机の前での格闘でした。

ワツソの当日の私の仕事はパレードに参加する舞姫の着付けの準備、手伝い、誘導です。この日ボランティアは約300名の協力があつたそうで、受付、警備、交通整理、進行、パレード参加などに配分されていたようです。私の担当した舞姫は、大学、高校の学生さんでこちらも協賛出演ですが、みな明るく後始末などもテキパキと綺麗にやってくれました。

多くの人の力を集めてなされた大イベントにボランティアの一員として手伝いが出来たことに少なからず感動をおぼえました。ちなみにワツソとは「来た」の意味だそうです。

中国支部（広島）

「知的障害者サッカー」ボランティアに参加して

澤田尚克（登録活動会員）



2010年5月9日、広島ビッグアーチで「第10回全国障害者スポーツ大会知的障害者サッカー中国四国予選」が行われ、そのボランティアに家内と共に参加しました。試合は4チーム

が参加し6試合行われる予定でしたが、参加したのは広島市、山口県、島根県の3チームで、リーグ戦3試合が行われました。

この大会は財団法人日本障害者スポーツ協会、日本知的障害者スポーツ連盟そして広島市の主催でしたが、その他NPOスポーツオフィスワン等沢山の団体、会社が協力して行われた大会でした。開催に先立ち私達ボランティア24名（若い学生さんが殆どで私達年配者は数名で、三井V-Netからは宗像さんを含め3名が参加）の3試合の役割と分担の説明がありました。私と家内は同じグループとなり、第1試合と第3試合は担架係（試合で怪我

をした選手を担架に乗せフィールド外に搬送する）、第2試合はボールパーソン係（フィールド外に出たサッカーボールの回収及び選手に対してボールを供給する）の役割となりました。

10時30分より開会式が行われ、11時より第1試合（島根県チーム対山口県チーム）が開始（前半30分、後半30分）されました。私達は担架係なのでフィールド外中央部に控えて試合を見ておりました。選手達はフィールド内を走り回りスピーディな試合をしていましたので、身体の不自由な方々の試合なのに選手のどこに障害があるのだろうと不思議に思っておりましたら、家内があそこを見てご覧と「山口県知的障害者スポーツ連盟」と書いてある山口県チームコーチのジャンパーの背中を指しました。この大会は知的障害者の方々のおかげだったのでした。両チームとも勝利を目指して激しくぶつかり合いながらボールを追いかけていましたが、試合は島根県チームの優勢で進んでいきました。結果は6対0で島根県チームの勝利でした。私達担架係はけが人もなくほっとしました。

第2試合は、第1試合で勝利した島根県チームと地元広島市の対戦となりました。私達はボールパーソンの役割ですのでフィールド外の指定された場所に待機しました。家内は隣でしたので、ちゃんとやってくれば良いかと心配でした。島根県チームはこの試合に勝てば全国大会の出場が決まり、広島市チームはこの試合に勝てば全国大会出場の可能性が大きくなるので試合開始から激しい試合となりました。試合開始早々、選手同士のぶつかり合いでけが人が出、担架係の出番となり試合は一時中断しました。後で聞いた話ですが、けがをした選手は病院に運ばれたそうです。大事が無ければ良いのですが、試合は1点を取り合う見ごたえのある試合となりましたが、1対0で島根県チームが勝ち全国大会の出場が決まりました。

第3試合は、島根県チームに負けた山口県チームと広島市チームの対戦となりました。両チームとも全国大会出場はなくなりましたが、勝利を目指して一生懸命戦っていました。試合は広島市チームが得点を重ねるなか山口県チームの「1点を取ろう」との合言葉でベンチも選手も声を出し合い懸命でした。担架係のボランティア宗像さんも声を上げて山口県チームを応援していました。結果は7対0で広島市チームの勝利となりました。

試合が終わり、閉会式、後片付けを終え4時半ごろ広島ビッグアーチを後にしました。フィールドは30度近くにもなり、暑く疲れた一日でしたが、障害のある選手の方々の試合とは思えない試合振りに、さわやかな気分となった一日でした。また、障害を感じさせないスポーツの力、担架係の宗像さんの声を出しての応援も大切なボランティアであること、主催者側のボランティアへの健康上の配慮等いろいろ考えさせられた一日でもありました。



第9回ひろしま「山の日」県民の集いに参加して

黒瀬 睦 (中国支部)



広島県の森林は県土の7割を占め、森林の豊かな恵みは溪谷の清流として海に注ぎ、生き物を育てている。自然を守り、育て、次世代に継ぐことを願い今年で9回目の「山の日」

県民の集いが県下10ヶ所の会場で行われた。

三井V-Net事務局員3名は、2010年6月6日(日)、早朝に広島県庁前からバス2台に分乗し約1時間半かけてメイン会場である北広島町八幡高原に着いた。

午前10時からのオープニングセレモニーが終わると今日のグランドワークについての説明と注意があった。「直径15センチ以下の木の伐採をし、伐採した枝、葉は樹木の根元に等高線に平行に並べて集積するが、モミジ・コブシ・ナツツバキなどは赤色テープで表示されているので残して欲しい。またこの時期にはまむしが草むらに潜んでいることがあるし、ウルシなどのつるに触れるとかぶれることがあるので注意して欲しい」ということだった。

「山の手入れ」ボランティア参加者約160名は15班に分かれ県森林インストラクターの方々の指導で手入れ作業が始まった。

日除け帽子の上からヘルメットをかぶり軍手をし、手ノコを持ち、臥龍山(標高1223m)のふもとの雑木林での作業は、まむし除けの棒を作ることから始まったが、初めて使う手ノコを力任せに動かしたためか1時間後の休憩時間までですっかり疲れてしまった。

休憩後は、それまで力任せに動かしていた手ノコは、引く時に力を入れ、木の繊維の方向と直角に切ればいいということが次第に分かるとともに、30年間手入れしていなかった雑木林がだんだんと日の当たる場所が増えることで楽しさを感じるようになった。もう少し頑張ろうと思いつつ始めた頃「終わりにしましょう」の声がかかった。

メイン会場ではほかに自然再生事業がすすむ霧ヶ谷湿原観察会、カキツバタ祭りや初心者のための登山講座で臥龍山登山(前日5日に臥龍山登山道整備ボランティアに三井V-Net会員である宗像さんが参加された)等が行われた。

来年度の“第10回ひろしま「山の日」県民の集い”からは10会場すべてメイン会場として開催される予定ということなので是非三井V-Net会員の皆さんが多数参加して広島の里山から自然と山の大切さを感じて欲しいと思った。6日の山の手入れ作業の様子が6月8日の中国新聞朝刊に掲載された。



初めてボランティアに参加して

清水 佐保子 (登録活動会員)



左から2番目が筆者

「今度、江波のホーム(デイサービス 悠々タウン江波)でボランティアの活動があるんだけど、出てみない?」細川さんからの誘いです。とんでもない、銭太鼓を始めて4ヶ月半、私には出来ないと最初はお断りしていましたが、思い切って参加することにしました(こんなに早くデビューするなんて思っても見ませんでした)。参加するからには私も楽しまなくっちゃー! 開き直りの心境でのぞみました。

銭太鼓をご覧になっている皆さん方のそれはそれは生き生きとした表情で手拍子を取っておられる人、身を乗り出してリズムを取っておられる人、皆さんの楽しそうにしておられる様子を見てあー参加して良かったと満足感で一杯でした。

すばらしい銭太鼓の人達に出会えたことに感謝し、喜びと幸せを皆様にも少しでも分かち合えたらなとボランティアの大切さをつくづく感じました。早く他の曲も発表出来るよう、練習に励んでボランティアに積極的に参加したいと思います。

すばらしい銭太鼓の人達に出会えたことに感謝し、喜びと幸せを皆様にも少しでも分かち合えたらなとボランティアの大切さをつくづく感じました。早く他の曲も発表出来るよう、練習に励んでボランティアに積極的に参加したいと思います。

ウクライナの女子学生のホームステイ —新しいホームステイの形—

松浦 義正 (日本ユニシスOB)・順子



2010年7月25日から8月7日まで、特定非営利活動法人(NPO)・ピースビルダーズ主催の平和活動がここ広島で行われ、世界から5人の大学生がやってきました。5人はウクライナ、イタリア、韓国(2人)、日本(埼玉県)出身で、国籍は様々ですが、ボランティア活動やイベントを通してみんなで平和について考えていくために、はるばる2週間以上故郷を離れて日本へ来たのです。

26日のオリエンテーション(ピースビルダーズの活動について・平和記念公園見学など)を皮切りに、“30年後の世界”を予想する紙芝居の作成・“30年後の世界”を予想した討論会を外部の人を交えて開催、Café Paco(ピースビルダーズの運営するフェアトレードカフェ)のパンフレットの英語版作成、平和記念公園の清掃、市立大学で開かれたピースキャンプのお手伝い、8月6日に行われた平和式典でのおしぼりボランティアなどなどたくさんの活動をしていました。

わが家にはウクライナの学生が25日から29日までホームステイしました。笑顔の素敵などとても明るい女学生で



人と人のまんなかに。

した。私たちにとってのウクライナというと、チェルノブイリ原発事故、ユーシェンコ大統領の毒殺未遂事件、美人のティモシェンコ首相…それ以外あまり馴染みのない国でしたが、夕食から翌日の朝食までの時間を使って、ウクライナの様子を聴きながら理解したり、日本の文化を味わってもらったりして交流を深めました。娘の浴衣を着て娘たちと一緒に花火をしたときは、ことのほか楽しそうでした。彼女は土産に下駄を買って帰ったほどです。

久しぶりに学生さんに泊まってもらいましたが、その間私たちは討論会に参加したり、ピースキャンプをのぞいたり、おしぼりボランティアでの活動の様子を見たりして、この若者たちが遠い世界から何のためにこの企画に参加し、どんなことを考えているのか、彼女たちと時間を共有しながら考えてみました。そして若者との交流に、またひとつ新しいホームステイの形を見出した気がしました。

未熟な英語で会話するのは大変ですが、だからこそまた、英語を勉強しようという意欲が湧いてきます。心に余裕のある限りこのような活動に協力させてもらいたいと考えています。



「第19回全国ボランティアフェスティバルひろしま」に参加して

上村 脩三 (中国支部)



「つながる民力、いかしあう民力」というテーマのもと第19回全国ボランティアフェスティバルひろしま大会が去る9月25日、26日の2日間にわたり開催され、全国各地でボランティア活動や、町おこし、街づくりなどの市民活動に取り組んでいる2400余名が参加しました。

9月25日初日は開会式のあとテーマトークを皮切りに「もっとつながるオプションプログラム」として「五感で感じるひろしま」ミニツアー、「つながりコンサート」、夜は立食スタイルで全国からの参加者が語り合い交流を深める交流会が催されました。

翌26日は「話し合うコース」7分科会、「体感コース」4分科会、「学ぶコース」11分科会があり私は、「話し合うコー

ス」の第7分科会のテーマ「ボランティア活動推進機関で、ボランティアのあり方を問い直す」に三井企業グループ有志各社の協力を得て、卒業生(シニア)の生き甲斐、自己実現の場を提供するボランティア団体の立場のパネリストとして参加し、更なるボランティア活動会員(三井企業グループの卒業生)の獲得、ボランティア提供先の幅広い確保の必要性について述べました。

まずはこの活動に携われる我々があらゆる機会を捉えて存在をPRし、ネットワークづくりが肝要であることをつくづく痛感した会でありました。またわが「三井ボランティアネットワーク事業団」の名を全国にPR出来たと思いました。



左端が筆者

ホームステイ受け入れ体験記

原田隆生・和美 (三菱重工業OB・三井物産OG)



ボランティア活動として、この度外国人ホームステイを受け入れました。財団法人ひろしま国際センター(東広島市)にて、2010年10月～11

月の2ヶ月間の日程で行われた海外日本語教師養成研修(中国)の教育プログラムの一貫として、このホームステイは実施されました。今回わが家にホームステイして頂いたのは、中国人の王さん(写真中央の女性)です。ホームステイは10月末に1泊2日の日程で行われ、その目的は「日本人の日常生活」を体験するというものでした。

王さんは中国の大学及び大学院で日本語を学ばれ、現在は中国の大学で日本語を教えています。4歳のお子さんをご主人を中国に残しての来日であり、日本語の学習意欲に燃えておりかつ、とてもしっかりした人生観をもてるように見受けました。流暢な日本語を話し、外国人が苦手とする敬語の使い方も上手でした。研修では毎日宿題も出され、つらい思いをしている様子でしたが、日本語に更に磨きがかかったものと思います。

わが家では、1日目に家内と一緒に料理を作ってもらいました。2日目には江戸時代の街並みが保存されている竹原市を案内し、また瀬戸内海の景色も楽しんで頂きました。王さんとはいろいろな話をすることが出来、私たち夫婦にとっても大変貴重な体験をすることができた2日間でした。

「駄菓子づくり広場」のお手伝いをして

富田 洋 (登録活動会員)

2010年11月3日(文化の日)、広島市郷土資料館(広島市南区)主催で駄菓子づくりや藍染め、懐かしい遊び等の体験ブースを出店し、資料館周辺に縁日の雰

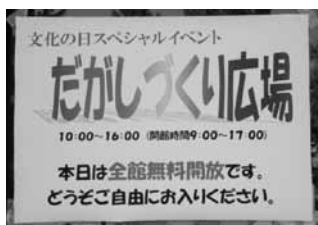


人と人のまんなかに。



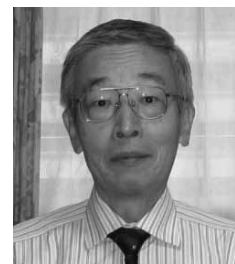
気と賑わいを創出するとの内容で「駄菓子づくり広場」が開かれ、手伝いで初めて参加しました。客は子供さんを始め、親子孫連れ等の家族が多数(約700名余り)来られ、初体験の「綿菓子、水飴、ラムネ菓子、一銭洋食づくり」、また思い出の遊び「こま回し、ホッピング、フラフープ、ヨーヨー等」を味わい、体験し大喜びでした。私は綿菓子づくりを担当しましたが、作る側にいるのは初めてで見ていたのとは違い、大きくまるく作るのは結構難しいもので、子供さんに教えるのも大変でしたが、出来た菓子を持って次のコーナーに走る姿はほほえましくこちらまでうれしくなりました。三井V-Netからは、私を含め10名の参加でした。皆さんもほとんど立ちっぱなしの作業でしたが、生き生きした活動姿は笑顔にあふれ歳を感じさせないものでした。暇を見てこま回し、フラフープ、ホッピングをやってみました。フラフープはできず子供さんに大笑いされました。歳ですね～!

9時過ぎから16時過ぎまでの行事でしたが笑いの絶えないものばかりで、帰ってからも話題になり楽しい一日でした。来年も是非参加したいと思います。



関西支部: 澤野井 潤一 (日本ユニシス OB)

三井V-Netのボランティア活動は三井グループOB・現役の皆様の熱心なボランティアのお陰さまで支えられていることにあらためて感謝申し上げます。



ボランティア活動される皆様は、さすがに三井グループの優秀な人材だと、大学・病院・文化施設などのボランティア先から非常に高い評価を得て、三井グループの名声を大いに高めています。その一方、三井V-Net設立当初は三井グループ34社の協賛からスタートしましたが、現在は20社に減少しています。企業の経済合理性追求の観点からボランティアは投資効果がないと判断されているのかもしれませんが、先進諸国ではボランティアの普及度も文化レベルの見方とされています。三井グループの企業文化を高めるためにも、三井V-Netへのご理解をいただければ幸いです。三井グループ月曜会は79社ありますので、三井V-Netへ協賛していただける会社を増やそうような運営が求められます。

14年前に三井V-Net創立のために奔走された三井グループ有志のボランティアに対する熱い思いを尊重するためにも、組織を受け継いだ責任として三井V-Netを発展させたいものです。

私こと、昨年10月末事務局任期満了にあたり皆様から頂きましたご厚情に深くお礼申し上げます。

今後も三井V-Netのために陰ながらお手伝いさせていただきます。

事務局便り

三井V-Net事務局退団に際して

本部: 石渡戸 征治 (三越 OB)



三井V-Net事業団の事務局に入団して5年、昨年8月末で退団しました。三井V-Netの会員の皆様及び事務局の皆様と楽しく仕事をさせていただき、充実した時期を過ごすことが出来ましたことに感謝しています。ボランティア活動を企画、実行することで新しい経験を積みながら視野を広げることも出来ました。異業種の三井グループの多くの方々と知り合うことができ、現役時代の貴重な体験談などを聞くことが出来たことも大きな財産です。最後になりましたが三井V-Netの益々の活性化と発展を願うと共に、三井V-Net事務局での経験を生かし皆様と一緒にボランティア活動に参画してまいりますので宜しくお願い致します。

一木会例会 2010年の行事

三井V-Netの会員ボランティアが集う一木会例会は通常奇数月の第1木曜日に開催し、必要な議事の審議、事務局報告や部会報告のあと、講演会などを行っています。また例会後の親睦会ではボランティア同士情報交換を行い、友好を深めています。昨年(2010年)に実施した行事は次のとおりです。

1月7日(木) 講演「趣味と人生—マジックあれこれ—」



講師: 坂本圭史 (東京アマチュアマジシャンズクラブ会長)

今や人生90年の時代ですが、脳を活性化させておくには、感激・興味・工夫・健康・恋の5つの要素が必要だとか。また趣味を持たない人は老化が早いそうで、坂本氏はマジックに出会って充実した人生を送ってられるようです。

講演では誰にでも出来るマジックを紹介していただくなど、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。



人と人のまんなかに。

3月4日(木) 講演「命のビザ 決断と真相」



講師：渡辺勝正氏（杉原千畝研究会代表）

第二次世界大戦中、外務省の命令に反して6,000人にのぼる亡命ビザを発給し、ユダヤ人を救った日本の外交官杉原千畝について講演願いました。

杉原千畝は昭和22年に帰国しましたが、周囲の風当たりは強かったようで、一部にはビザ発給に際して大金を受取ったとの風評もあったようです。しかし、その後、関係者の努力で平成12年(2000年)に外務省が杉原の業績をたたえる顕彰プレートを外交資料館に設置するなど復権を果たし、また同年、杉原の生まれ故郷である岐阜県八百津町に杉原千畝記念館が建てられたということでもあります。

5月6日(木) 講演「地球の未来を守るのはシニアたち」



講師：北谷勝秀氏（地球環境平和財団会長）

感染症の蔓延、人口の増加、食料不足、貧困など人類の将来に対して危機感を持つ北谷講師は、これら地球規模の問題を考えられるのは時間的に余裕のない現役世代ではなく、まさにシニアたちであると力説。世界の恵まれない人に手を差し伸べよう働きかけがありました。北谷氏が立ち上げたNPO2050は、地球規模の問題を広く世に訴え、貧困撲滅、自然環境保護、女性の地位向上に貢献しています。

7月1日(木) 講演「世界的歴史学者 朝河貫一 — 20世紀初頭 日米で活躍した会津のサムライ、その知られざる真実」



講師：矢吹晋氏（横浜市立大学名誉教授）

朝河貫一は明治6年福島県二本松で生まれた世界的歴史学者で、日本法制史、日本とヨーロッパの封建制度比較の第一人者として欧米で評価され、イェール大学の教授にもなった人物ですが、なぜか日本では評価されていませんでした。

矢吹講師は、これは戦前においては、朝河貫一の実証主義史学が右翼皇国史観と相容れないこと、戦後においては、左翼の唯物史観と相容れないためと論じています。ポスト冷戦期になり、左翼史観が崩壊してようやく見直しが始まったようです。

9月2日(木)

1. 部会報告（東大国際センター部会）

世話人瀬川晋氏から部会発足の経緯、活動概況の報告がありました。

2. 講演「現代上海の大学生たちと街の変貌」



講師：見城悌治氏（千葉大学国際教育センター、大学院人文社会科学研究所准教授）

上海師範大学での半年間に及ぶ研修を終えられた講師が、上海の大学生の持つ日本イメージや上海の大学、街の様子について、最新情報をもとに解説いただきました。

11月4日(木)

1. 部会報告（千葉大部会）

前世話人加藤良克氏から活動報告がありました。

2. 講演「中国の少数民族教育と日中の教育比較」



講師：王錫宏氏（中国中央民族大学教授）

中国の少数民族、とりわけチベット族教育について、中国政府の政策実行により識字率の向上、チベット人材の養成などの成果があがっているものの、教育の質、レベルがまだ低位にあるため、少数民族の特徴を伸ばす教育の強化が必要とのことでありました。

また王講師の日本人イメージは、ルールをよく守る、衛生意識が高い、総じて物静か、好奇心が強い — などがあつたものの、最近ではこれらの優れた民族伝統が失われつつあるとの懸念の表明もありました。

皆様からの原稿を募集中

ニュースレターは、会員の皆様からの寄稿文を中心に年2回(1月、7月頃)発行し、運営会員会社OB及びその関連先宛に配布しています。このニュースレターを通じて会員間の交流と情報交換が今まで以上に広がることを期待しています。

三井V-Netの活動に参加されたご感想、ご提案、ご意見等幅広く募集しております。字数500～600字以内の原稿と写真一葉を添付のうえ、事務局までご送付下さい。なお、掲載及び時期については事務局にご一任下さい。

ホームページのご案内

三井V-Netの行事や活動の詳細をホームページに掲載しています。具体的な活動内容及び行事予定日等はホームページをご覧ください。
ホームページアドレス <http://www.mv-net.com/>

編集責任者：木村 堅二

三井ボランティアネットワーク事業団 (三井V-Net) 皆様もボランティア活動に参加しませんか

三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ各社の協力を得て、1996年に設立されました。主として三井グループ企業出身のシニア層に対してボランティア活動を紹介・仲介・斡旋するとともに、三井V-Net独自のボランティア活動を企画・立案・実行することによって、シニアの豊かで健康な生きがいを感じられるよう支援を行い、三井グループ全体の社会貢献活動に資することを目的としています。ボランティア活動会員登録に関しましては入会金および年会費等は不要です。

ボランティア活動会員登録票		FAX		(関東地域) 03-5570-8035	(関西地域) 06-4396-8681	(中国地域) 082-222-5101
三井ボランティアネットワーク事業団(三井V-Net) 御中 貴事業団を通じたボランティア活動への参加を申込みます。						
記入日 20 年 月 日						
氏名	(フリガナ)	生年月日	19	年	月	日
	-----	性別	[]	男	・	[]
住所	郵便番号	-				
自宅電話番号	-					
自宅FAX番号	-					
携帯電話番号	-					
E-Mail Address						
出身企業						
以下の活動についてご希望される項目に○印を入れて下さい(複数可)						
希望するボランティア	① []	国際交流(留学生と日本語を通じたの交流・文章作成の支援等)				
	② []	環境保全(河川敷・海岸等の清掃、水源林地域保全活動)				
	③ []	医療・福祉(病院外来の案内・図書整理等、福祉施設内の草刈・清掃等)				
	④ []	文化・教育(文化施設での手伝い、発展途上国の教育費支援)				
	⑤ []	その他ご希望される活動をご記入して下さい				

上記入手の個人情報は、個人情報保護法の方針に従って厳重に管理し、ボランティア活動に必要な範囲内に限り使用させていただきます。

三井ボランティアネットワーク事業団

本部(東京) 〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3階
TEL:03-5570-2181 FAX:03-5570-8035

関西支部(大阪) 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル4階
TEL:06-4396-8680 FAX:06-4396-8681

中国支部(広島) 〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 槌本ビル5階
TEL:082-222-5101 FAX:082-222-5101

ホームページアドレス <http://www.mv-net.com/>